

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	調布市	
施 設 名	調布市せんがわ劇場	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	10,095	(千円)
公 演 事 業	5,901	(千円)
人 材 養 成 事 業	872	(千円)
普 及 啓 発 事 業	3,322	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	親と子のクリスマス・メルヘン	2018年12月18日～24日	出演：荒木亜矢子，伊藤総，今井美佐穂，うえだななこ，園田シンジ，深堀絵梨，村島智之，山村茉莉乃 他	目標値	715
		せんがわ劇場ホール		実績値	875
2	せんがわ演劇祭	2018年2月8日～17日	演目：車のいろは空のいろ，間違いの年月，顔のない少年，鋼のピアノ 他	目標値	858
		せんがわ劇場ホール		実績値	1,101
3	JAZZ ARTせんがわ2018	2018年9月14日～16日	演目：メインライブ，子どものための音あそび，自由即興ZOO 他	目標値	660
		せんがわ劇場ホール，他		実績値	633
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,233
				実績値	2,609

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第9回せんがわ演劇コンクール	2018年7月14日・15日	出演団体；N2，コトリ会議，すこやかクラブ，パンチエッタ，ブルーエゴナグ，ゆうめい	目標値	770
		せんがわ劇場ホール		実績値	645
2	第7回せんがわピアノオーディション	2018年2月23日・24日	出演者；三原未紗子，下岡萌々子，都築小百合，谷口若菜	目標値	220
		せんがわ劇場ホール		実績値	263
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	990
				実績値	908

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	市民舞台芸術学校 市民参加演劇講座	2018年5月30日～ 8月5日	講座名；朗読講座，戯曲リーディング講座，市民演劇入門講座，伝統芸能講座，夏休み子ども表現講座	目標値	300
		せんがわ劇場ホール		実績値	271
2	演劇アウトリーチ	2018年5月8日～ 3月14日	実施先：はしうち教室，デイサービス若葉仙川店・西調布店，調布市立第七中学校 他	目標値	1,500
		第七中学校はしうち教室 他		実績値	1,652
3	伝統芸能ワークショップ おらほ亭せんがわ落語会	2018年10月～ 2019年1月	ワークショップ講師：柳家三語楼，調布嘶の会 落語会：ワークショップ参加者，柳谷小さん，柳谷三語楼	目標値	200
		せんがわ劇場ホール 他		実績値	221
4	サンデー・マティネ・コンサート～午後への前奏曲～	2018年4月15日～ 2019年3月17日	出演者：矢野緋奈子，中島巧乃介，松元彩，藤野千鶴，石坂浩毅，鈴木沙久良，北澤幸，東井美佳，藤原清登 他	目標値	2,000
		せんがわ劇場ホール		実績値	2,188
5	仙川・まちなかコンサート	2018年6月9日	出演者：高野景，蘆澤奈津，茂木美彩希，木ノ瀬佳子，沢井麗，金子昇馬，高辻瑤子，小平玲奈，金子昌憲，松元麗 他	目標値	500
		せんがわ劇場ホール，桐朋学園大学，他		実績値	1,566
6	ファミリー音楽プログラム	①2018年6月10日 ②2018年12月1日	出演者：廣田真理衣，三上結衣，岩谷優希，関根季樹，川村沙耶香，金子昇馬，有馬美梨 他	目標値	200
		せんがわ劇場ホール		実績値	308
7	音楽アウトリーチ	2018年10月16日～ 2019年3月13日	出演者：大川拓音，矢野緋奈子，藤野千鶴，佐々木怜音，山崎勇太，茂木美彩希，高野景，芦澤奈津，伊藤綾香 他	目標値	500
		せんがわ劇場ホール，佐須児童館，他		実績値	441
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5,200
				実績値	6,647

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

調布市せんがわ劇場は、市の東部に位置し、三鷹市・世田谷区と隣接している。調布市民のみならず、近隣の多くの住民にも足を運んでいただいている。

また、当劇場がある仙川地域は、住宅や商業施設が集積し、様々な人々が行き来し、にぎわいと活気があるまちであるほか、高校や大学などの教育機関、武者小路実篤記念館等の文化施設があり、文化的雰囲気が漂うまちである。

「おらほせんがわ夏まつり」「桜の保存運動」に見られるように、地域住民などが一丸となって、まちの活性化に向け、取り組んでいる地域でもある。

調布市における市民団体等による文化芸術活動は活発であり、活動の場となる施設が求められている。多くの公立施設が多目的なホールであるのに対して、当劇場は、小規模・ホール単体施設である特徴を活かし、【舞台芸術】に特化し、その創造拠点として、調布市あるいは仙川地域における新たな地域文化の創出に寄与し、舞台芸術面での「仙川」、あるいは「調布市」というまちのブランド力を高める発信基地となっている。

当劇場は、市民や地域にとって、芸術文化が身近となるまちづくりのため、せんがわ劇場が地域文化の中継地となり、文化の力で地域の人々を繋ぎ、地域のブランド力の向上へ寄与し、劇場がまちの誇りとなっていくことをめざしている。

この将来の姿の実現に向けて、以下のとおり4つの使命のもとに当初の予定通りに事業を展開した。

【使命1】市民・地域と共に地域の芸術文化ネットワークの創造

【使命2】舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げるプログラムの提供

【使命3】舞台芸術を通じ、次世代を担う子どもたちや舞台芸術活動者の育成

【使命4】舞台芸術活動を活性化する利用者の視点を大切にした施設貸出事業の実施

平成30年度せんがわ劇場年間事業計画のとおりに、上記4つの使命に基づき、当初の予定通り事業を実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

せんがわ劇場がめざす将来の姿を達成するためには、一緒に劇場を育てる市民や地域の力が不可欠である。市民・地域と連携・協働し、その活力を劇場事業や劇場経営に活かしていかなければならない。劇場の利用者、劇場で行われる事業のお客様をはじめ、広報協力や協賛などで劇場を支援する人や地域の機関、そしてより積極的に劇場に関わり活動する市民サポーター等、様々な形で劇場は支えられている。市民は劇場に関わることで、より元気で豊かな人生を獲得していく。そのことによって地域が活性化し、市民・地域に劇場がしっかりと支えられていく、という好循環を生み出していく。

この好循環を生み出していくためには、まず、市民・地域と共に地域の芸術文化ネットワークの創造、舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げるプログラムの提供及び舞台芸術を通じ、次世代を担う子どもたちや舞台芸術活動者の育成という使命に基づいた事業の継続が必要になる。

次に、舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げるために、多くの市民が、舞台芸術を楽しむことができるよう、親しみやすいものにし、舞台芸術に造詣の深い人も引き付ける、質の高いプログラムを実施していかなければならない。

これらの事業については、次世代の舞台芸術活動者を育てるため、演劇コンクールやピアノオーディション等の発表機会となる事業を実施する。事業終了後も、当劇場に関わりをもってもらおうよう、舞台芸術活動者としてステップアップを目指す人を対象に、劇場主催のスタッフや講師、出演者として、育成支援を行っている。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

公演事業の目標として、多くの市民が舞台芸術を楽しむことができるよう、親しみやすいものにするという、「舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げる」ことを掲げている。該当する事業の評価として、121人定員のホールながら、公演事業合計で2,609人鑑賞している。親と子のクリスマス・メルヘンでは、入場者のうち62.6%が親子ペアチケットで、親子で舞台芸術を親しみ、JAZZ ART せんがわ2018では、入場者の他に、680人の方が劇場外での公園イベントを鑑賞している。

また、舞台芸術に造詣の深い人も引き付ける、質の高いプログラムにするという目標も設定しており、せんがわ演劇祭では、日本童話リーディング・海外戯曲リーディング・地域団体のリーディングを実施し、アンケート結果では「期待以上に良かった」「期待通りによかった」の割合が92%を記録し、多くの方に満足いただいたと判断できる。

次に、人材育成の目標として事業が終了した後も当劇場に関わりをもってもらうことを掲げている。次世代の舞台芸術活動者を育てるため、コンクールやオーディションなど発表機会となる事業を実施する。演劇コンクールのファイナリストの団体の方など、舞台芸術活動者としてステップアップを目指す人を対象に、演劇アウトリーチの講師や、親と子のクリスマス・メルヘンの出演などを依頼し育成支援を図った。

最後に、普及啓発事業も、市民の日常生活が舞台芸術によって豊かになり、継続的に劇場に足を運んでもらったり、子どもたちが、舞台芸術とふれあい体験する機会を提供するという、「舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げる」ことを目標として掲げている。サンデー・マティネ・コンサートでは、延べ1,247人（18回平均69人）に継続的に足を運んでもらい、普及啓発事業全ての事業で子どもを対象とし、舞台芸術にふれる機会を提供した。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

せんがわ劇場では、限られた予算で最大限の効果を発揮できる事業を実施する努力を行っている。
その結果、毎年恒例の事業である、親と子のクリスマス・メルヘンやピアノオーディション等の公演事業及び人材育成事業は、当初の計画通りに実施できた。

一方、当初の計画以外に実施した、普及啓発事業である演劇及び音楽のアウトリーチについては、予算内で昨年度以上の回数を実施することができた。

回数が増加した理由として、小学校で実施したワークショップを見学した学童クラブの職員から、同じようなワークショップを自分達の学童クラブでも実施して欲しいと依頼がある等、ワークショップへきていただくことで、実際の子供たちの様子やワークショップの雰囲気を実感できた結果、アウトリーチ事業の拡大へとつながったと考えている。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

せんがわ劇場の事業は、地域の文化力が向上していく質の高い事業及びめざす将来の姿の達成に向けた事業評価を実施することにより、事業全体を貫く方向性が決まっている。

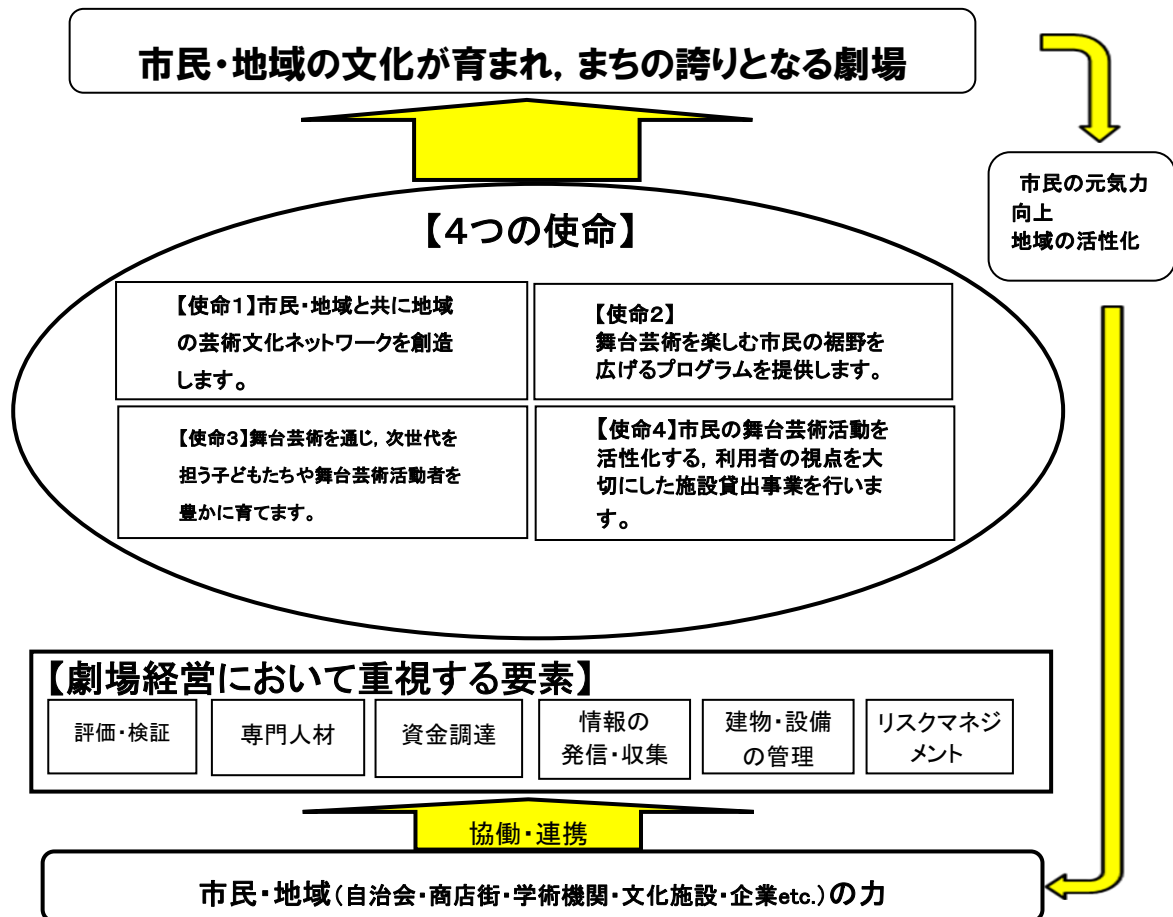
その方向性を達成するためには、①市民・地域と共に地域の芸術文化ネットワークを創造し、②舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げるプログラムを提供し、③舞台芸術を通じ、次世代を担う子どもたちや舞台芸術活動者を豊かに育て、④市民の舞台芸術活動を活性化し、利用者の視点を大切に施設貸出事業を行うという4つの使命に基づいた事業を実施していかなければならない。

このような事業を実施するためには、劇場経営として、専門人材の配置（事業制作の専門嘱託員の雇用をするほか、コーディネーターとして事業や経営に関する専門家による支援を受けるなど、継続的に専門的な人材を配置・育成）し、情報の発信・収集（地域の情報収集を活かした情報発信を行い、多くの人々がせんがわ劇場を知り、劇場の事業に関心を持っていただけるよう働きかける）が必要である。

その結果、来館者や事業参加者、せんがわ劇場の活動を理解し支援する人々を増やしていけるようになっていく、というサイクルが成立している。

調布市の仙川と世界をつなぐ企画として、平成28年度に開催した海外戯曲シリーズ「海外戯曲リーディング」7つの国と地域の戯曲の日本初上演企画、平成29年度の海外戯曲シリーズ「うちの子は」の演劇上演（前年のリーディング作品の中から選定）、そして平成30年の「せんがわ演劇祭」の中で、海外戯曲シリーズとして「海外戯曲リーディング」3作品の上演と、日本戯曲1作品の上演、さらに調布市内の団体による上演を企画。劇場（行政）の主催事業に市内の団体（市民）と、劇場自主製作作品4本（専門家）を上演した。行政、市民、専門家の三者協働の企画として、劇場開館10周年の年に実施した。アンケート結果として、満足度92%を記録し、地域のお祭りとして高い満足度を得ることができた。

また、サンデー・マティネ・コンサートでは、気軽に気楽に音楽を楽しむ機会として、地域住民の方々から支持を得ていると実感している。来場者は、リピーターが多い中、初めての方も毎回2割以上は来場しており、音楽を楽しむ市民の裾野を広げられている。ほとんどの回で入場率が90%を越え、企画内容に拠らず当コンサートシリーズを楽しみにしている客層が確実に増加している。



【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

人材育成事業である、演劇コンクール及びピアノオーディションは、他ではあまりみられないユニークな、せんがわ劇場ならではのものを実施している。

東京都、関東に限らず、日本全国で演劇コンクールは少ない。その中で全国の演劇団体は自分たちの力量を測ったり、プロによる評価を得たいと思っている。同時に市民の中では、才能ある演劇団体と出会い、彼らの作品を観覧したい要望がある。せんがわ劇場演劇コンクールではこのようなニーズに答え、新しい才能を世に送り出しながら、市民が気軽に演劇に触れる機会を提供していく。

また、仙川地域は、日本を代表する音楽家を輩出する桐朋学園大学があり、学生はもとより、プロの音楽家も居住する地域である。音楽家の住む街であり、121席と小さな劇場だからこそできる特色のあるオーディションの実施を目標に、国内外のピアノコンクールではあまり類を見ない、選考委員と参加者、市民の距離が近いアットホームなオーディションを目指し実施している。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

演劇アウトリーチの講師として、ドラマ・エデュケーション・ラボ（DEL）の設置と運営を実施した。ドラマ・エデュケーション・ラボ（以下、DEL）を今年度より組織し、運営を開始した。構成メンバーは①過去の演劇コンクール参加団体の構成員、②せんがわ劇場に自主事業に携わった者、③桐朋学園芸術短期大学卒業生のいずれかで、定められたプログラムを受講し、アウトリーチ講師としてのスキルを高めてゆく。DELの中でこれまでの経験やスキルなどを元に、ティーチングアーティスト（TA）として幾人かを認定し、講師としてアウトリーチ事業に携わってもらう。他のメンバーも助手としてアウトリーチに関わり経験やスキルアップを図った。